

岩國
錦帯橋

山口県岩国市

錦帯橋

世界遺産をめざして

To become a World Heritage Site

KINTAIKYO BRIDGE

六十余州名所図会 周防岩国 錦帯橋(歌川広重) 岩国徴古館蔵

三四〇余年の連

戦国から泰平へ

関ヶ原の戦いで敗れた西軍に属していた吉川家^{きっかわ}は、出雲国等14万石から岩国3万石へ移封となりました。まだ、いつ戦になってもおかしくない緊迫した時勢です。初代領主・吉川広家^{ひろいえ}は、横山を政務の中心に定めます。それは、錦川を挟んで山を背負う地形が、防衛にも有利だったからです。

錦川により分断された城下町を繋ぐため、早くから橋が架けられました。しかし、洪水の度に橋は流失していました。

やがて幕藩体制がととのい、平和な時代が訪れると、「流されない橋」を架けることが、岩国領の悲願になりました。



『御領内之図』(1668年)

錦川を挟み、城山を背にした所に領主や一部家臣の居館、対岸をその他大半の家臣・町人の地にしました。
所蔵／岩国徴古館

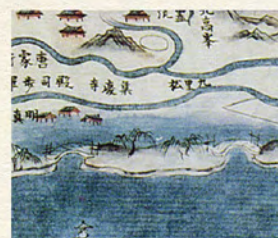
橋の着想と創建

3代領主・広嘉^{ひろよし}は橋の研究に取り組みますが、解決策は容易には見つかりません。

ある時、広嘉は明の僧・独立^{みん}から、名勝・西湖^{せいこ}の本を入手します。そこには、5つの小島を繋ぐ6つのアーチ橋が描かれていました。これにより広嘉は錦帯橋の着想を得たと伝わります。

それは、錦川に4つの橋脚を築き、それらを5つの橋によって繋ぐというもの。これを実現するため、戦国の世に培われた土木・建築技術に加えて、更なる研究が重ねられました。

そして1673年、着想と技術が実を結び、錦帯橋は創建されました。



『西湖遊覧志』の挿絵

西湖(中国)の島々を渡る橋の絵に、広嘉は錦帯橋の着想を得たと伝わります。
所蔵／岩国徴古館

3代岩国領主
吉川広嘉
(1621-1679)
錦帯橋を架橋。



なり

時代を渡る橋

創建の翌年、錦帯橋は洪水に伴う橋脚の崩壊によって、流失してしまいます。しかし、すぐに復旧に取り掛かり、年内には再建工事を完成させました。

その後は、修復と架替を重ねながら、長い間、人々の往来を支えてきました。1950年には台風により流失してしまいますが、市民一丸となった取り組みにより、再建を果たします。

こうして、錦帯橋は時代を渡し、今もなお、同じ場所に、同じ姿で在り続けています。

意匠 Design

1699年のものを最古とする江戸時代の12枚の図面と、近代以降の実物大「型板」の存在。これらは、錦帯橋のデザインが300年以上の時を超えて受け継がれていることを証明しています。

技術 Workmanship

写真や動画が発達する前にあっても、架替を契機とした度重なる作図により、架橋技術は伝えられました。これにより、300年前と変わらぬ姿の錦帯橋が現存しています。

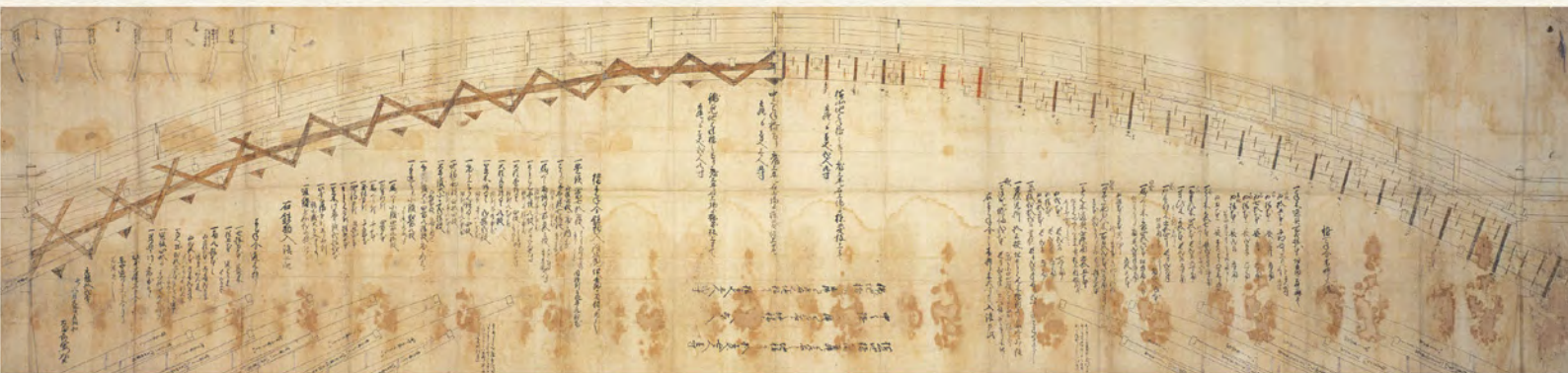
材料 Material

主要構造材にはマツやケヤキ、化粧材にはヒノキ等の腐食しにくい材を使うなど、木材の性質や経済性、調達可能性に応じた素材選択が行われています。

位置 Setting

近世の古地図を検証すると、錦帯橋の位置が現在まで変化していないことが分かります。また、過去の架替の記録からも、その位置に変化がないことが読み取れます。

現存する最古の図面 『錦帯橋掛替図面』(1699年) 所蔵／岩国徴古館



年表

1600 慶長 5	関ヶ原の戦い 吉川広家、岩国3万石を拝領
1664 寛文 4	吉川広嘉が『西湖遊覧志』をみて、 錦帯橋のアイデアを得る
1673 延宝元	錦帯橋の創建
1674 延宝 2	洪水により流失 再建
1677 延宝 5	錦帯橋周辺の河床に捨石をして、敷石を補強
1699 元禄12	現在する最古の図面が描かれる
1871 明治 4	廃藩置県

1922 大正11	国の名勝の指定を受ける
1943 昭和18	名勝区域の追加指定を受ける
1950 昭和25	キジア台風により錦帯橋流失
1951 昭和26	昭和の再建開始(1953 昭和28 完了)
2001 平成13	「平成の架替」開始(2004 平成16 完了)



明治31年 架替工事



昭和25年 台風による流失



平成13年 架替工事 桁組

英知・技の結集

世界唯一の構造

世界中、どこを探しても、錦帯橋と同じ構造の木造アーチ橋は存在しません。

石造りなら、「アーチ式石橋」があります。7世紀初頭、中国の隋で造られた「安済橋」は、縦長の輪石（アーチ型の石）を金属によって繋ぎ、密着させて、頑強なアーチ構造を実現しています。

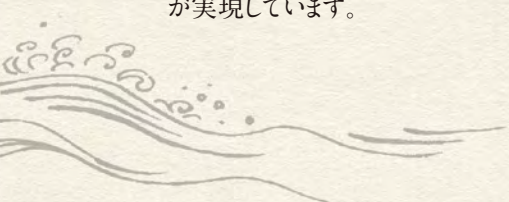


中国の安済橋（アーチ式石橋）

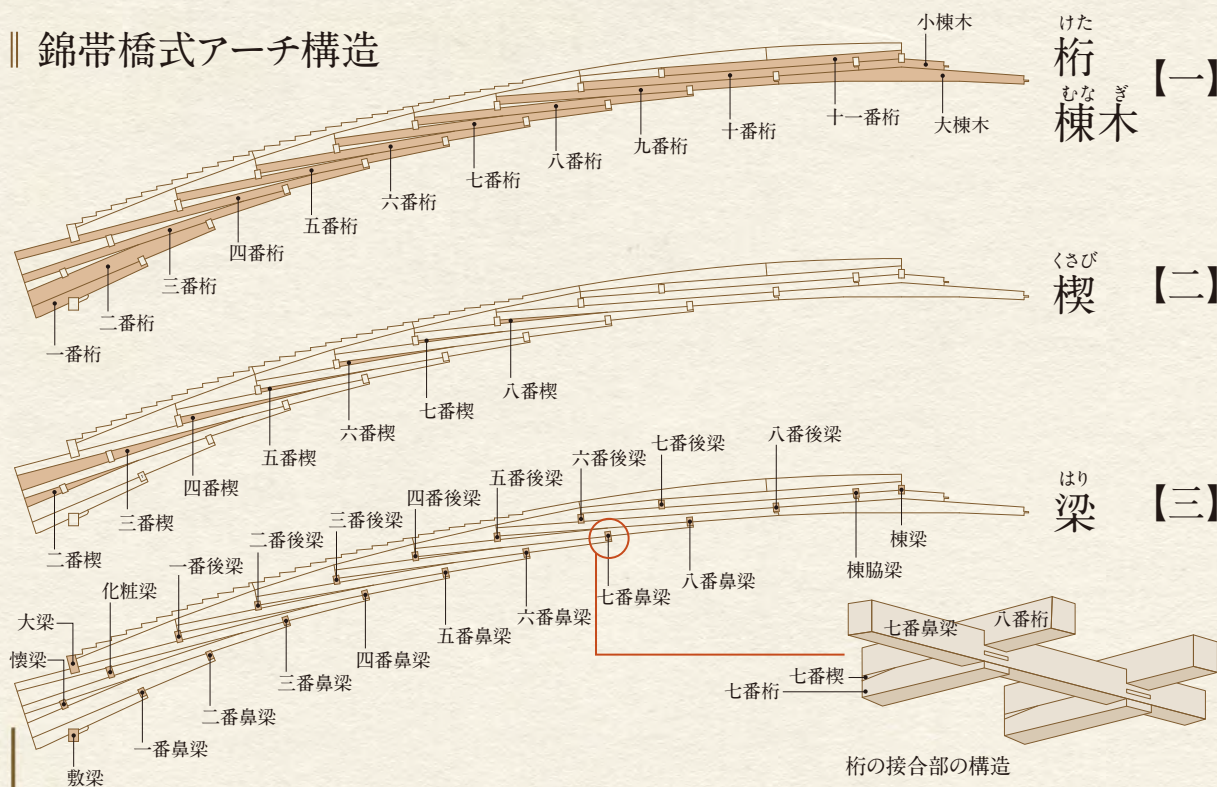
一方、木材は材質そのものが柔らかい上に、一本一本が細く、アーチ状に加工することも困難です。石と同じ組み方をしたとしても、必要な強度は得られません。そこで考案されたのが、桁、楔、梁、棟木などの部材を組み合わせた「錦帯橋式アーチ構造」です。

桁は橋脚からアーチの中央部に向かって、角度をつけながらせり出して重ねます。その角度の変化によって生れる隙間は、楔で埋めます。また、平行に並んだ5本の桁は、梁によって横方向に固定されます。こうして各橋脚からせり出した桁同士は、棟木によって中央部で繋がります。加えて、巻金で部材を束ねることにより、強度を高めています。

この「錦帯橋式アーチ構造」は、世界に例のない唯一のもの。これにより35.1mという破格に長い径間の木造アーチが実現しています。



錦帯橋式アーチ構造



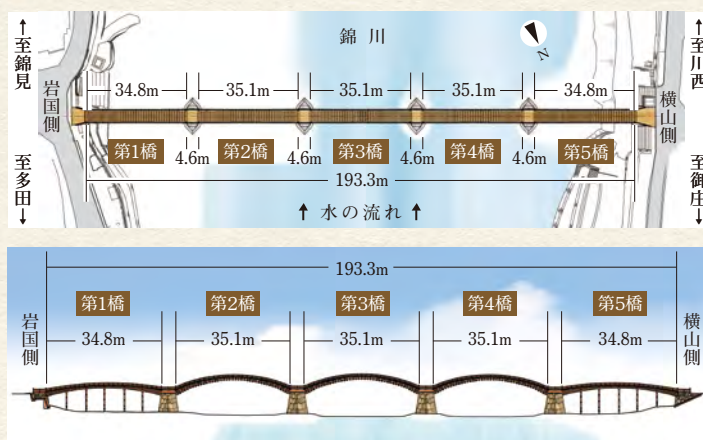
上の図はアーチ橋（橋脚から中央まで）の側面。橋を下から見上げた写真（左）において、縦に走る5本の桁を、真横から見た図です。

【一】 桁は、一番桁から十一番桁へと、角度をつけながらせり出し、巻金で束ねています。中央部までせり出した桁は、大小二つの棟木によって、向かいの部材と接合されています。

【二】 楔は、上下の桁材の角度の変化によってできた隙間を埋めるV字形の部材で、桁と一緒に巻金で束ねています。

【三】 梁は、等間隔に配列された5本の桁を横方向に固定しています。これによって、左の写真のような平行に走る規則的な美しい構造が実現しています。

錦帯橋諸元



どの時代にあっても

世界的にも著名な浮世絵師、葛飾^{かつしか}北斎^{ほくさい}や歌川^{うたがわ}広重^{ひろしげ}をはじめ、多くの絵師が錦帯橋を描いています。

また、薩摩藩から徳川将軍家へ嫁^{あつひめ}いだ篤姫^{あつひめ}は、江戸へ上る途中、わざわざ回り道をして、錦帯橋を訪れました。橋を渡るには、事前に許可を得る必要がありましたが、なかなか許可が下りな

かったため、押しかけて橋を渡ったと記録されています。

創建から約350年、どの時代にあっても、錦帯橋の美しさは、芸術家のみならず、多くの人々を魅了してきました。

美しいものをそのまま後世に残したい。人々のこの思いが、錦帯橋をその場所に、同じ姿で留めたといえます。

時空を超えた美

美しさ、無限

遠くから愛でるもよし、近づいてみるのもよし、そして、渡ってみるのも、またよし。

錦帯橋には、観る者の位置にも、時節にも捉われない、無限の美が備わります。



アーチのリズム

岩国城から錦帯橋を見下ろすとき、5連のリズミカルな造形美に気がきます。

小石を水面に投げたときのように、リズミカルにアーチを描き、観る者をわくわくさせる。そんな「動」の美しさがあります。



葛飾北斎
『諸国名橋奇覧 すほうの国きんたいはし』
所蔵/山口県立萩美術館・浦上記念館



歌川広重
『六十余州名所図会 周防岩国錦帯橋』
所蔵/岩国徴古館



二代目歌川広重
『諸国名所百景 周防岩国錦帯橋』
所蔵/個人



自然との調和

錦帯橋を遠くから眺めると、豊かな自然に囲まれていることに気がきます。自然林が残る城山を背景に、景観に配慮した街並み、そして、鏡のような錦川。錦帯橋はまるで自然の一部のようです。



石と木

どっしりした石積みの橋脚の上に、翼のような木のアーチ。その重厚感と軽快さのコントラストは、錦帯橋ならではの美しさです。そして安定感のある佇まいは、観る者の気持ちを落ち着かせます。



シンプルと複雑

アーチ橋の上部は平坦でシンプルなのに対して、アーチ橋を下から見上げたときの姿は、驚くほど複雑。桁、梁などが一定の規則性を保ちながら、入り組む様子は、とても美しいものです。



名勝 錦帯橋

錦帯橋は、山口県岩国市の錦川にかかる5連の橋。日本三名橋に数えられ、豊かな自然を背景として、国の名勝に指定(上流・下流を含む地域)されています。

1673年、「流されない橋を」との願いのもと、知恵と技術の結集により創建。川幅約200mを渡すその構造は、精巧かつ独創的。そして美しい姿を誇ります。

創建以来約350年、錦帯橋の技術と美しさは、今もなお守られ続けています。



世界遺産をめざして

世界遺産とは、人類共通の宝物として未来に引き継いでいくべき遺産のことです。大きく自然遺産と文化遺産とに区分されます。世界遺産として登録されるには、その遺産の価値が世界的に認められること、本来の価値を継承していることなどの要件があります。

錦帯橋は、先人達の熱意と努力により、今日まで受け継がれてきた岩国の宝物です。私達はこれを人類共通の宝物として、後世に伝えていくための取り組みを推進しています。

世界遺産登録の流れ

「世界遺産暫定一覧表」記載への取り組み

「世界遺産暫定一覧表」に記載

国から世界遺産委員会に「推薦書」提出

諮問機関による審査

ユネスコ世界遺産委員会で登録の可否を決定



錦帯橋
KINTAIKYO-BRIDGE

発行 錦帯橋世界文化遺産登録推進協議会

お問合せ先 岩国市 産業振興部 錦帯橋課

TEL 0827-29-5107 FAX 0827-22-2866

e-mail kintaikyo@city.iwakuni.lg.jp

〒740-8585 山口県岩国市今津町一丁目14番51号

URL <http://kintaikyo-bridge.jp>

